

学生の挑戦 – 第20回若年者ものづくり競技大会 –

四国能開大での夢が実現！ やった！夢の大会で金賞ゲット！

四国能開大に入る前から、「若年者ものづくり競技大会」に出るのがずっと夢でした。授業で「電子回路組立て」に興味を持って、「これで勝負しよう！」って決めて、去年の12月から放課後に先生と一緒に練習を始めました。この競技は、基板を作るハードの作業と、プログラムを組むソフトの両方があるんですけど、過去の課題や先生が作ってくれた模擬課題を使って、時間内に正確に仕上げる練習を何度も繰り返しました。授業で習ったことがすごく役に立ったし、わからないところは先生が本当に親身になって教えてくれて、だんだん「いけるかも！」って自信が湧いてきました。大会当日は「絶対金賞取るぞ！」って気持ちで挑んで、約3時間（競技時間：4時間）で課題を完成！

結果は…金賞！！
夢だった大会で、最高の結果が出せて、本当にうれしいです。四国能開大での学びが、夢の実現につながった瞬間でした。



組立て基板とプログラム課題例
(うとんを題材としたプログラム課題)

『電子回路組立て』職種 金賞(厚生労働大臣賞)

田中 晴さん

四国職業能力開発大学校
専門課程
電子情報技術科2年

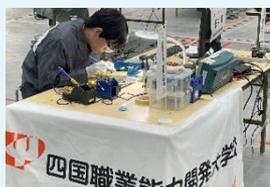
競技大会で得た！挑戦することの大切さと自信

競技大会で金賞を取れたことは、自分にとってすごく大きな自信になりました！少し大げさかもしれませんが、今回の大会は「人生初の本気の挑戦」だったと思っています。大会への出場は、まさにまたとないチャンスでした。挑戦するって勇気があるけど、やってみることで得られるものが本当に多いと感じました。それに、「チャンスは絶対に逃さない！」っていう気持ちを持つことの大切さも、今回の経験で強く実感しました。この大会で得た学びは、これからの自分の成長にとって、ほんとうに大きな財産になると思っています！



田中さんにとって、四国能開大とは！？

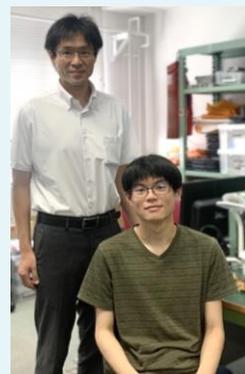
四国能開大は、「やりたいことが学べる！」「挑戦できる！」そんな場所です。電子情報技術科では、ハードもソフトもネットワークも、基礎からしっかり学べます。先生たちはとてもやさしくて、丁寧に教えてくれるし、「これに挑戦したい！」って言ったときも、すごく親身になってサポートしてくれます。私はこのあと、応用課程（生産電子情報システム技術科）に進学が決まっています。これからも「やりたいこと」をとことん突き詰めて、いろんなことに挑戦していきたいです！そして来年は…技能五輪に挑戦します！！



(大会当日の様子)

先生からのメッセージ 電子情報技術科 東 正登

若年者ものづくり競技大会は、全国から20歳以下の学生が集い、高度な技能を競う場として毎年開催されています。本校はこれまでに11年連続入賞（ITネットワークシステム管理）、8年連続入賞（電子回路組立て）を果たしており、教育環境と学生の努力が確実な成果として継続的に実を結んでいます。今回の電子回路組立て職種における金賞受賞もその歩みの一つであり、田中君は日々の学修とともに技能向上へ向けた粘り強い取り組みと努力を継続し、着実に成長してまいりました。本校の特徴のひとつは、学生と教員が互いに信頼し合い、学生一人ひとりに寄り添い、共に課題を乗り越えていく学びの環境です。挑戦を重ねる中で技術力だけでなく人間的な成長も促され、その結果は電子情報分野を中心とした先端企業への就職実績にもつながっています。「ものづくりが好きで技能・技術を仕事にしたい」——そんな想いを持つ高校生の皆様にとって、本校は最高の挑戦の場です。今後も実践的教育と人間的成長を両立させ、社会に貢献する人材の育成をめざします。



「電子回路組立て」職種とは？

競技では、小規模な組込みシステムを開発します。システムは、主に電子回路組立て基板と、それを制御（コントロール）するマイコンボードのプログラミングから構成されます。電子回路を理解し、その回路を構成する電子部品をはんだ付けするスキルと、その回路を使った機能を実現するためのプログラムを開発するスキルを競います。